スポーツ難しい子どもたち
ゆるゆる運動会で交流

スポーツを通して交流する参加者

富山　心や体にハンディがあり、運動や生活に支援を必要とする子どもたちを対象にした「富山県放デイゆるゆる大運動会」は11日、富山市秋ケ島の県総合体育センターなどで開かれた。新型コロナウイルス対策とストレス軽減のため、県内14会場をオンラインでつないで実施。県内の子どもたち約230人がユニークな種目で交流した。

学校や家庭でスポーツに親しむことが難しい子どもたちの健康増進を図ろうと、県内の放課後等デイサービスや大学、短大の関係者らでつくる実行委員会（林原洋二郎委員長）が企画し、今回が4回目。

参加した子どもたちは入退場自由で、大玉転がしや綱引き、カラフルなボールを使った玉入れなどを楽しんだ。時間を待つのが苦手な子どもに配慮し、スポーツを常時楽しめるブースも用意。床に散らばった靴下から、ペアを見つけて畳んでカゴに入れる「くつしたまいれ」やバラバルーンなどに夢中になっていた。

子どもたちは「体を動かすことができてとても楽しかった」と笑顔を見せた。

林原実行委員長は「オンラインも組み合わせ、気軽にスポーツに親しんでもらえたと思う」と話した。北日本新聞社後援。